

◆ 講評

申請団体 1

申請団体 1 は、同種事業の履行実績が豊富で、本業務に対する適切な理解のもと安定した提案がなされている。竣工からオープンまで約 2 ヶ月間のゆとりを持たせ、その間に内覧会等のプロモーションを実施できるようにするなど、実施体制やスケジュールは、実現可能な提案として信頼度の高い内容となっている。

デザイン面や機能面においては、「座る」、「ワークする」といった基本的行為が丁寧にとらえられており、様々な視線高を意識した家具が提案されているほか、個人作業やグループ作業にも対応し、集中思考と緩和思考との空間を使い分けた家具配置とするなど、利用者に配慮した計画となっている。

また、各スペースの家具は、多様な使い方にも対応しており、オープン後の利用者ニーズに応じてフレキシブルな利用が可能となっている。情報発信コーナーなど、交流や共創の場を意識した提案は、利用しやすさにも配慮したものであり、その効果も一定期待できる。

一方で、共用部に対する部屋の区画は従来と大きく変わらず、家具の配置に頼る空間づくりとなっており、新しい施設が誕生したというインパクトやメッセージ性が十分にあるとは言い難いように感じる。加えて、枚方市の現状把握の視点が弱いため、施設の立地特性やポテンシャル、地域特有のニーズ等についての具体的な情報を盛り込んだメッセージがくみ取れず、全体的に特徴を感じにくい提案となっている印象を受けた。

申請団体 2

申請団体 2 は、施設の立地特性やポテンシャルについては、地域特有のニーズ等を加味した独自の 6 つの方向性を示すなど、丁寧に分析されており評価できる。

今回の用途に近い類似施設におけるコワーキング施設の整備実績もあり、デザイン面においても、画一的なプランを打破した斬新なリノベーション計画を提示するなど、要求水準書に記載する「公共施設の既成概念にとらわれない柔軟な視点と創造性」に沿うべく、創意工夫が見受けられる。

また、自然資源に由来する家具やカーペットデザイン等により、それらを緩やかにつなぐインテリアデザイン計画は、多様な利用形態や共創を想起させる強いメッセージ性を伴う提案でもあり、評価できる。階段状の休憩スペースは、デザインとしては面白いが、使い方のフレキシビリティを低下させており、コワーキングスペースにパーティションで仕切る独立ブースの提案についても、狭い空間にこうしたデザインを行うことで圧迫感を感じることから、一層の工夫を求めたい。

プロモーションにおいては、枚方のような大都市近郊部における起業支援の観点は欠けているものの、提案内容には具体性があり、アクセス難の視点から見た「悪立地」を「好立地」に転換しうる視点で将来計画をイメージしており、本施設の抱える利用率低迷という具体的な課題と地域特性に丁寧に向き合っている姿勢には期待が持てる。

一方で、実施体制やプロモーションのスケジュール面では、改善の余地があり、特に Wi-Fi 整備については、事前の検討不足が懸念されるが、デザインの質を落とすことなく、具体化に向けて対応することを求めたい。